

中小企業動向 トピックス

中小企業の業況はほぼ横ばいで推移、先行きは慎重な見方

第193回「中小企業動向調査」結果概要

〔2007年1～3月期実績、同年4～6月期および7～9月期見通し〕

当公庫では、お取引先のご協力を得て、2007年3月に第193回中小企業動向調査を実施しました（調査対象13,323社、有効回答企業数5,529社、回答率41.5%）。

中小企業の景況感を表す業況判断D.I.は、5期ぶりにプラスとなったものの、ほぼ横ばいで推移しました。先行きは1期先の見通しが15期ぶりに実績値を下回っており、慎重な見方となっています。また、売上げD.I.は、引き続きプラスを維持していますが、8期ぶりに対前期比で悪化しました。

一方で、従業員D.I.は、高い水準が続いており中小企業の雇用マインドは高水準を維持しています。また、設備投資実施企業割合は30%台での高い水準が続いています。

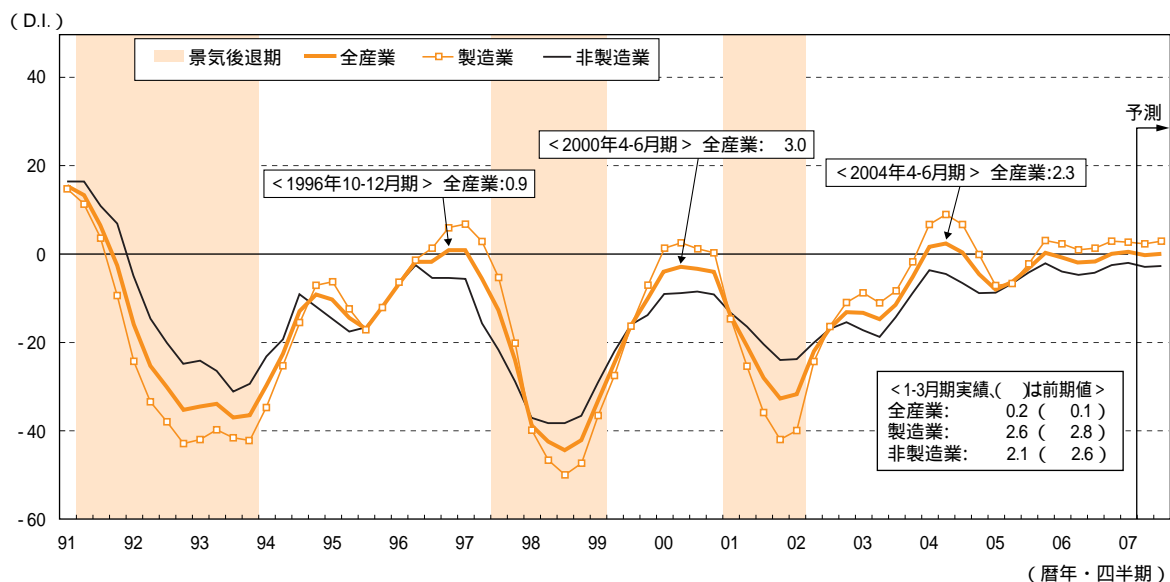
業況判断D.I.は、ほぼ横ばいで推移

中小企業の2007年1～3月期実績の業況判断D.I.（全産業）は、0.2と前期実績を0.3ポイント上回り、2005年10～12月期以来5期ぶりにプラスとなったものの、ほぼ横ばいで推移となっている。

産業別にみると、製造業では前期実績から0.2ポイントプラス幅が縮小して2.6となった。また、非製造業では前期実績から0.5ポイントマイナス幅が縮小して2.1となった。全産業の業況判断D.I.の改善には非製造業のマイナス幅縮小が寄与している。

先行きについては、製造業、非製造業ともに概ね横ばいで推移する見通しとなっている（図表1）。

（図表1）業況判断D.I.の推移（「好転」 - 「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）

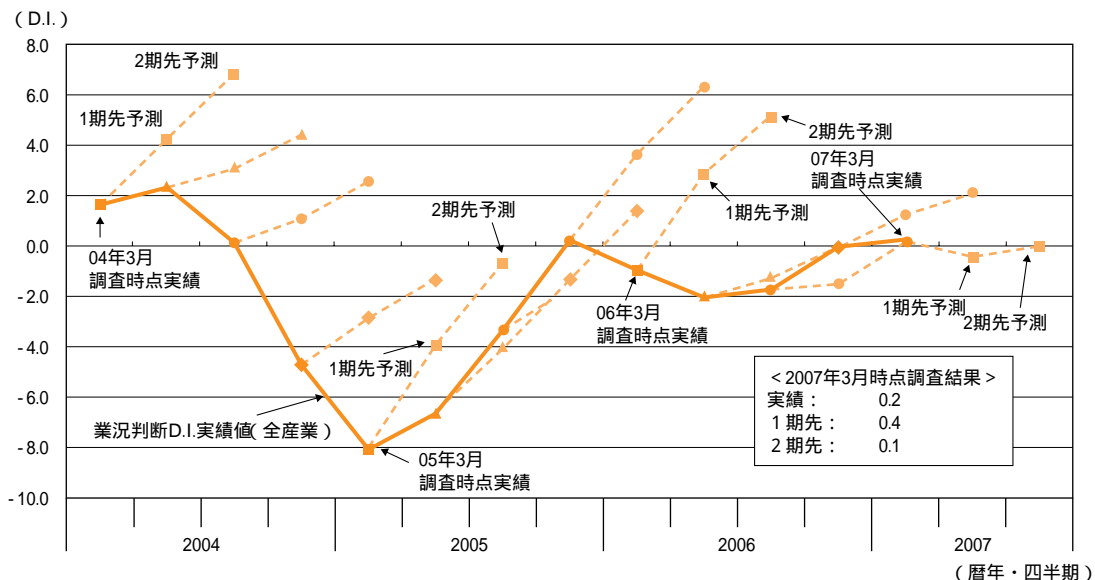


業況判断の見通しにやや陰りがみられる

業況判断D.I.（全産業）の実績値及び1期先、2期先予測値の推移をみると、今回の2007年1～3月期調査では、1期先（4～6月期）の見通しが、0.4と実績値の0.2を下回る結果となった。1期先の見通しが調査時点の実績値を下回るのは2003年4-6月期以来15期ぶりのことである。

2004年4～6月期から2005年1～3月期にかけての景気の「踊り場」局面では、実績値から1期先見通し、2期先見通しへと業況判断D.I.は改善に向かう動きとなっていた。一方、今回の調査では、2期先の見通しも0.1と1期先見通しからはやや改善しているものの、依然実績値を下回る水準となっており、中小企業の先行きに対する見方は慎重なものとなっている（図表2）。

（図表2）業況判断D.I.の実績値及び1期先、2期先予測値の推移（全産業、季節調整値）

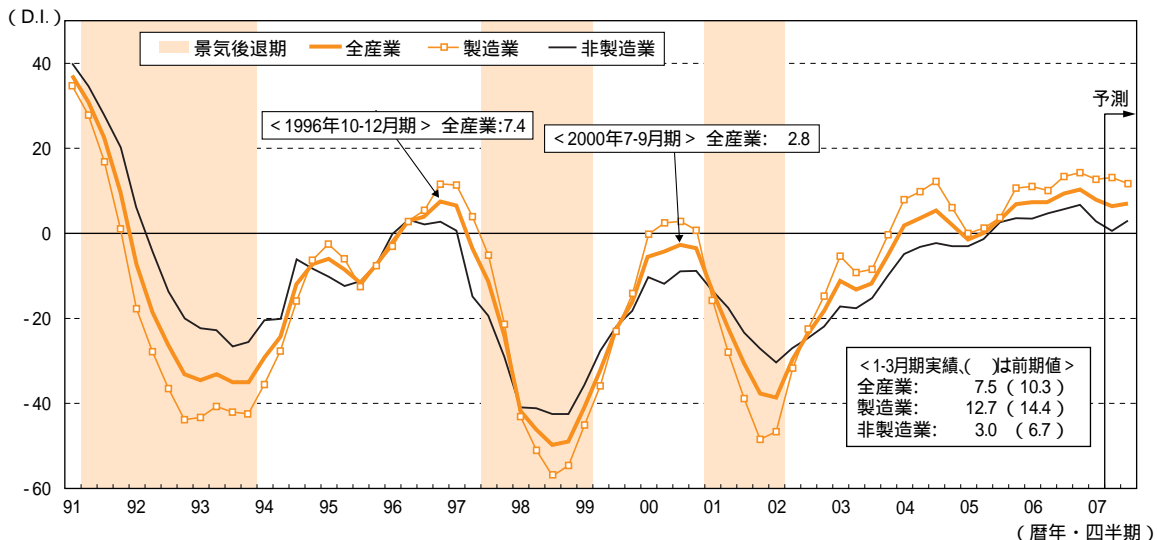


売上げD.I.は引き続きプラスを維持しているが、8期ぶりに悪化

2007年1～3月期実績の売上げD.I.（全産業）は7.5となった。引き続きプラスを維持しているものの、前期実績を2.8ポイント下回る結果となった。売上D.I.が対前期比で悪化するの、2005年7～9月期以来8期ぶりのことである。製造業では非鉄金属、鉄鋼などが高水準のプラスを維持しているものの、精密機械、化学工業、金属製品などでプラス幅が縮小した。非製造業では、小売業、倉庫業、建設業でプラスからマイナスに転じた。

先行きは、製造業、非製造業ともに横ばいの推移が見込まれている（図表3）。

（図表3）売上げD.I.の推移（「増加」 - 「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



業種間の明暗は引き続き鮮明、機械産業の一部にも業況感に陰り

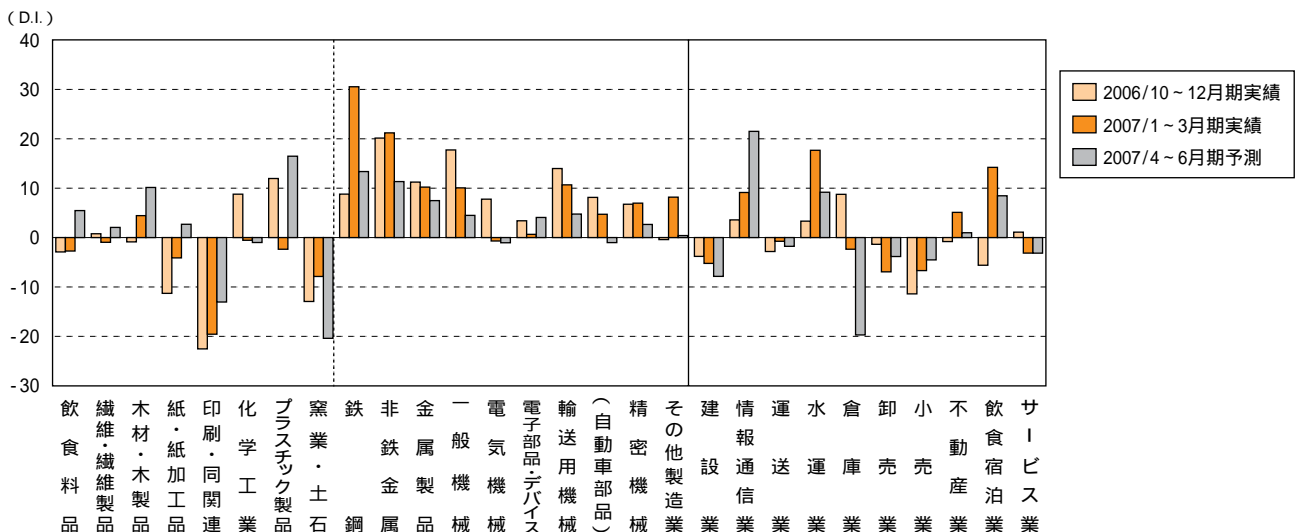
業況判断D.I.を業種別にみると、製造業では、鉄鋼で大きく改善し、非鉄金属で高いプラスを維持した。一方、プラスチック製品、化学工業、電気機械ではプラスからマイナスとなった。電子部品・デバイスでもプラス幅が縮小していることから、IT関連財の在庫増に伴う生産調整の影響などによって、これまで全般的に好調を維持していた機械産業の一部にも業況感に陰りがみられる。また、印刷・同関連、窯業・土石などではマイナスが続いている。

非製造業では、水運業、飲食宿泊業で大きく改善したが、倉庫業、サービス業ではプラスからマイナスとなり、建設業、卸・小売業ではマイナスが続いている。

先行きについてみると、製造業では、窯業・土石、印刷・同関連ではマイナスが続く見込みであり、鉄鋼、非鉄金属などでプラス幅が縮小する見込みとなっている。一方、プラスチック製品、電子部品・デバイスなどでは改善が見込まれている。

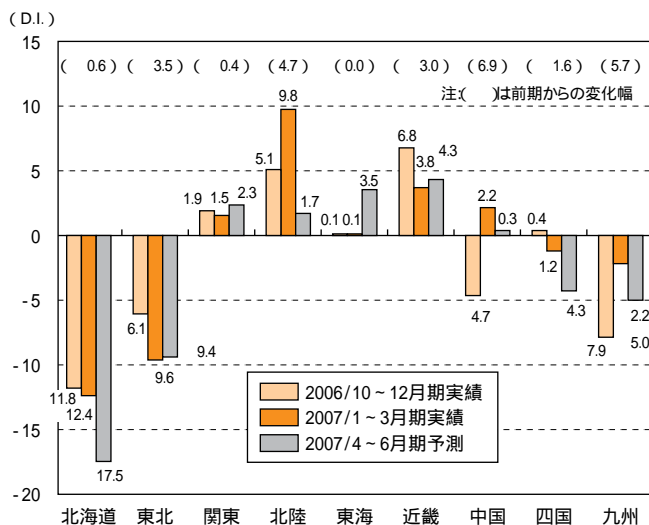
非製造業では、情報通信業、水運業ではプラスが続く見込みである。一方で、建設業、倉庫業、卸・小売業、サービス業ではマイナスが続く見込みである（図表4）。

（図表4）業種別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



地域別には地域間の明暗が色濃い

（図表5）地域別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



業況判断D.I.を地域別にみると、関東、近畿、東海などの大都市圏ではプラスを維持している。

また、北陸でプラス幅の拡大がみられ、中国ではマイナスからプラスとなった。北陸では、繊維・繊維製品や飲食宿泊業などの回復が全体のプラス幅拡大に寄与した。また、中国では水運業の好調さなどが全体の押し上げに寄与した。

一方で、北海道、東北ではマイナスが続いており、四国ではプラスからマイナスとなった。

このように、地域別には地域間の明暗が色濃いものとなっている（図表5）。

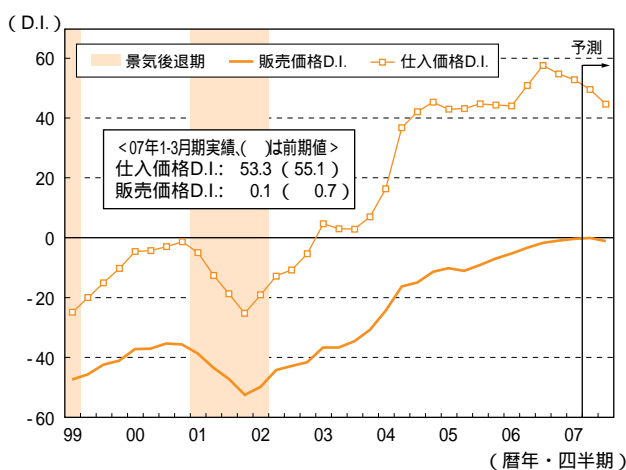
販売価格D.Iは7期連続、仕入価格D.I、純益率D.Iは2期連続で改善

販売価格D.I.（全産業）は、7期連続でマイナス幅が縮小した。また、仕入価格D.I.は、高い水準が続いているものの、2期連続でプラス幅が縮小した（図表6）。

これらを受けて純益率D.I.は、製造業、非製造業ともに2期連続でマイナス幅が縮小した。先行きは、製造業、非製造業ともに概ね改善の動きが続く見通しとなっている（図表7）。

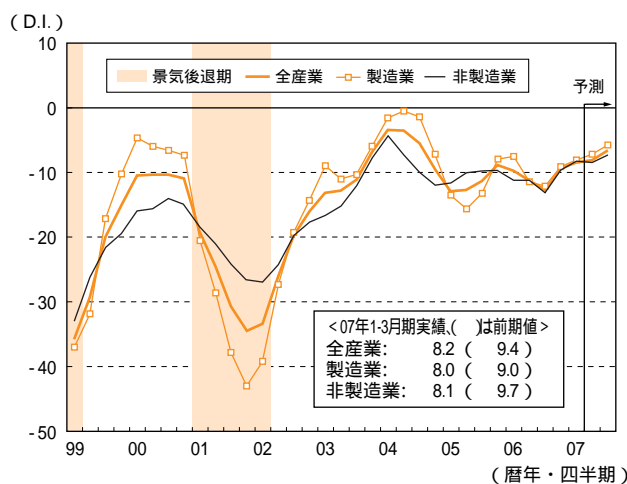
（図表6）価格D.I.（全産業）の推移

（「上昇」・「低下」企業割合、前年同期比、原数値）



（図表7）純益率D.I.の推移

（「上昇」・「低下」企業割合、前年同期比、季節調整値）



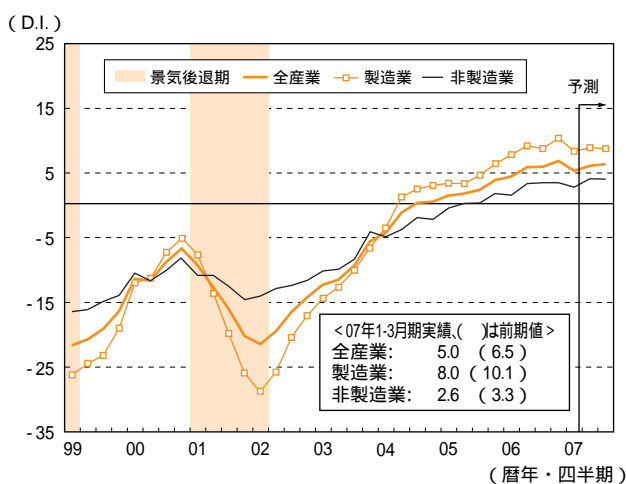
中小企業の雇用マインド、設備投資実施企業割合は高水準を維持

従業員D.I.（全産業）は、プラス幅が縮小したものの2004年10～12月期以来10期連続でプラスとなった。製造業、非製造業ともに高い水準が続いており、中小企業の雇用マインドの高さを反映している。

また、設備投資実施企業割合（全産業）は、やや低下したものの2005年7～9月期以来7期連続で好調の目安となる水準である30%を上回っており、企業の設備投資意欲は依然強い状況が続いている。

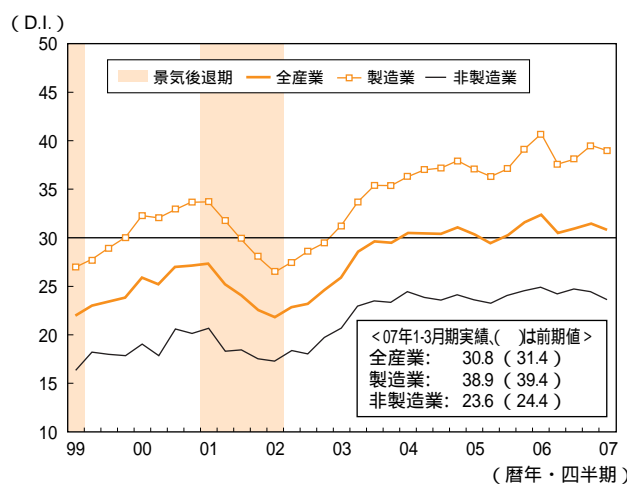
（図表8）従業員D.I.の推移

（「増加」・「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



（図表9）設備投資実施企業割合の推移

（実施企業割合、%、季節調整値）



（久保田 典男）

「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：中小企業金融公庫 総合研究所 ホームページ <http://www.jasme.go.jp/>